



溝旗神社

厄を祓い、心身を整え、日々の安寧を祈る社

御祭神

素戔鳴尊（牛頭天王）・天照大神

御神徳

厄除・八方除・病除・縁結び

古くより「天王坊」と親しまれ、
人々の厄を祓い、心身を整え、
日常に安寧を願う祈りが
受け継がれてきた神社です。





素戔鳴尊

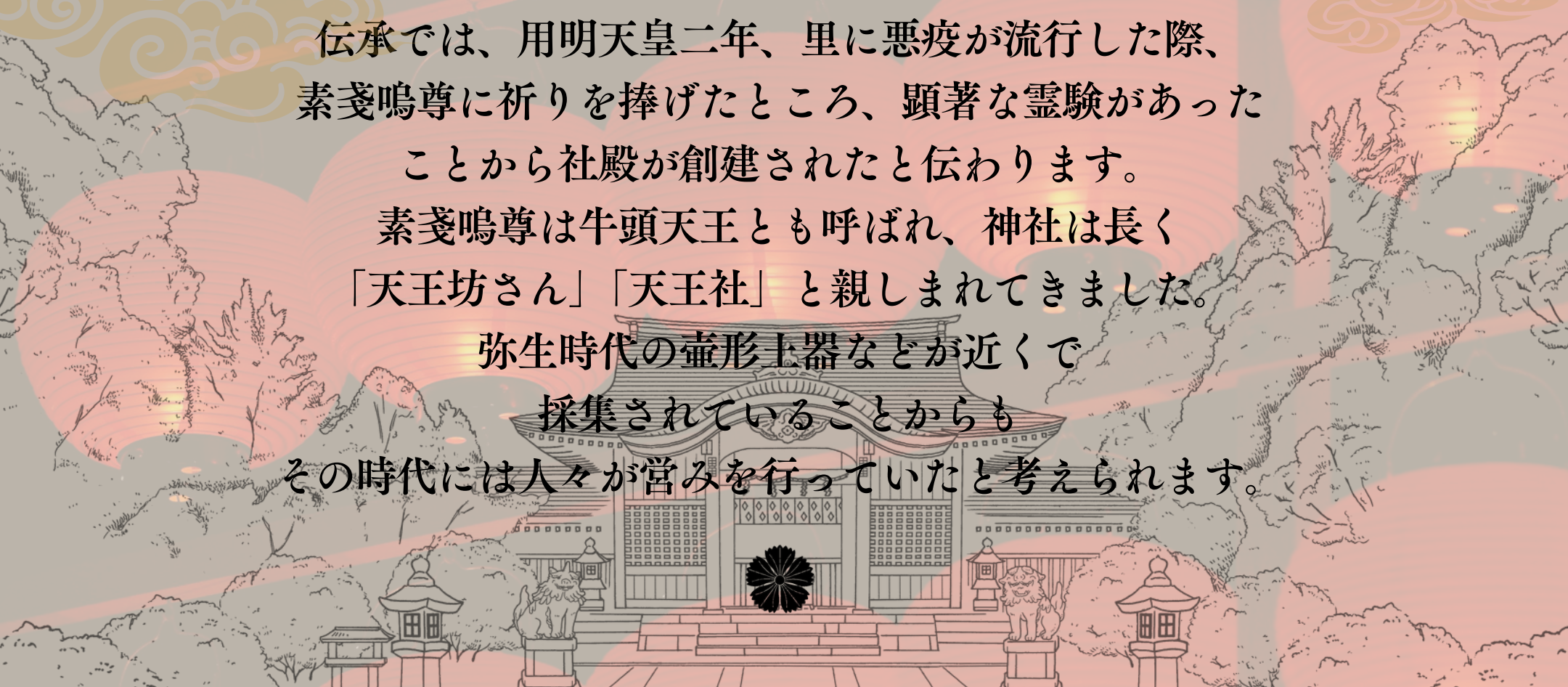
「天王坊さん」と呼ばれた神社

疫病を鎮め、災いを祓う祈り。

伝承では、用明天皇二年、里に悪疫が流行した際、素戔鳴尊に祈りを捧げたところ、顕著な靈験があったことから社殿が創建されたと伝わります。

素戔鳴尊は牛頭天王とも呼ばれ、神社は長く「天王坊さん」「天王社」と親しまれてきました。

弥生時代の壺形土器などが近くで採集されていることから、その時代には人々が宮みを行っていたと考えられます。



名を変え、 戦火を越えて

溝旗という名の由来

明治になると、鎮座地の地名から溝旗神社となりました。

境目(溝)に旗が立てられていたことに由来すると伝わります。

その「境」が、上加納村の土地の境であったのか、神さまのいらっしゃる場と、人々の暮らす場との境であったのかは定かではありません。

ただ、古くからこの地に「境」を示す何らかのしるしがあり、人々が特別な場所として大切にしてきたことを、「溝旗」という名は今に伝えています。



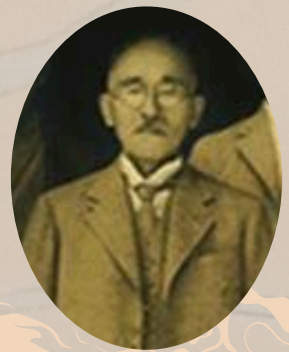
近代の造営と戦火



昭和十三年、建築家・伊東忠太の設計により
本殿以下社殿が造営されました…

昭和二十年、戦火により社殿は焼失するも、
ご神体は神職奉持して避難御安泰を得ました。

伊東忠太の設計図も焼失を逃れたため、設計図
をもとに戦後造営し現在に至ります。



伊東忠太

今も続く、 厄除の祈り

人々の暮らしとともに、これからも。

ちょうちん祭

旧暦六月十五日には「ちょうちん祭」を斎行します。

ご祭神が退治した八岐大蛇の目に見立てた赤丸ちょうちんを持ち
参拝する祭りとして受け継がれています。

災いを退ける目印として、ちょうちんは軒先や玄関に吊すとされ、夏の雷除けとされています。



蘇民将来の護符

－ご祭神縁の災い除けの護符－

ご祭神にまつわる説話では、「蘇民将来子孫」の札を持つ者は、災厄を免れると伝えられています。古くから受け継がれてきた、厄除けの祈りです



お月夜参り

－満ちる月に、牛王玉の祈りを－

毎月旧暦十五日に行われる「お月夜参り」。当社では、満ちた月を牛王玉に重ね、月が満ちるように願いが満ち、月が欠けるように災いが消えていくことを願います。毎月、心身を整える祈りの習わしです。



石竹の神紋

－石竹に厄除けを－

石竹には、災いを退けたという古い説話が伝わります。厄を除き、人々を守護する祈りを今に伝えます。



これからも、人々の暮らしのそばに。

